

# A-107 農家主婦の貧血に関する実態調査

日本女大家政 ○野崎幸久 田中千寿子 門倉芳枝

目的 女性に、男性に比し、貧血者が多いことは周知のことであるが、とくに農村の主婦には貧血の頻度が高いと言われている。最近の農村の変貌はまことに著しいものがあって、これが主婦の健康状態とくに貧血頻度にも何らかの影響を与えることが考えられる。我々は昭和45年来、日本各地の農村主婦の貧血の実態を調査して来たが、今回は東京近郊農村における成績を報告し、あわせて過去に行った各地の調査成績と比較して考察を試みたい。

方法 調査地区は埼玉県川越市の2農協地区であって、調査日は昭和51年7月および52年7月で、農家主婦を対象とした。血液検査（ヘモグロビンHb；赤血球，ヘマトクリット，白血球）とともに身体状況および血圧、尿の検査を行った。栄養調査は各農家を戸別訪問し、主婦にインタビュー形式で行った。貧血の判定はヘモグロビン濃度により、12g/dl未満者を貧血とした。

結果 51年度福原地区は56名調査し、Hb 平均 $12.6 \pm 1.3$  g/dl、貧血者は12名 23.2%であった。52年の芳野地区では41名について調査し、Hb 平均 $12.4 \pm 1.2$  g/dl で貧血者は9名 23%であった。この地域内での貧血者と非貧血者における食事摂取量、労働状態についてみると若干の差が認められた。

しかし国内の他地域での成績とともに比較検討すると、鉄摂取量、睡眠時間、労働時間、年齢等と貧血の頻度と密接な関係のあることを認めることができた。